

完了報告書

記入年月日 2026年2月16日

採択団体名 福浦自主防災グループ 通称「福浦ギャルズ」

■事業概要

基本情報	
事業名	自然災害後の「孤立」を想定した福浦地区発災3日後(30日後)対応訓練の実施
事業内容	事業内容①:能登視察 事業内容②:発災3日後避難対応訓練 事業内容③:発災30日後避難対応訓練 事業内容④:学習教材の作成
事業背景	<p>昨年の能登地震による災害状況を見ていて、全く同じ地域性を持つ愛南町・福浦では、「孤立」が大きな課題となると考えた。そこで、愛南町教育委員会や愛南町防災対策課等と連携し、自然災害後に孤立した地域において、生き抜くための支え合いや情報の獲得・伝達、また学校再開等に焦点を当てた発災3日後対応訓練、並びに発災30日後想定訓練を実施したいと思う。</p> <p>ライフラインが完全に破壊された状況の中で、どう生きてどう立ち上がっていくのか、様々なシーンを想像し、様々な視点を持って対応する訓練を企画・実践したい。その際は、これまで指導いただいている慶応大学大木聖子准教授などの協力も仰ぐ。</p> <p>そして、これら企画・実践・振り返りまでを詳細に記録し編集して、愛南町全体で活用できる防災教育教材にしたいと考えている。</p>
コミュニティ 設立の経緯	<p>福浦地区自主防災グループ=通称「福浦ギャルズ」は、10年前に愛南町教育委員会の主催事業により、PTAを代表して東日本大震災の被災地を巡る研修に参加した。</p> <p>それ以来、大切な人・ふるさとを守る、と課題意識を高めた私たちは、福浦地区の様々な場所での防災学習会(訓練も)を毎月続けることとした。</p>
本事業に関する過去の 取り組み内容	<p>ほぼ毎月行っている福浦地区での防災学習会は、10年間のうちに各区長さんや町当局との連携・協力により、参加者や協力者が増え、学習会の内容も深まっていき、避難路の整備や誘導灯の設置など具体的な事業も形となった。</p> <p>福浦小学校の先生方も防災教育に熱心で、地域と方々と一緒になって防災安全マップを作成する中で、文部科学大臣賞を何度も受賞することとなった。今年は、私たちが総合的な学習の時間へ入り、20回の防災授業を企画・実践している。</p>
事業体制	<ul style="list-style-type: none"> ・福浦自主防災組織:事業内容①の能登視察に 6名 ・福浦小学校:事業内容②の発災3日後避難対応訓練に 15名 ・慶応大学大木ゼミ:事業内容③の発災30日後避難対応訓練に 12名 ・愛南町防災対策課:事業内容②③の訓練にサポート 3名 ・愛南町教育委員会:全ての事業への企画・運営をサポート 2名
全体スケジュール	<p><9月></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業へ申請を上げるための協議 <p><10月></p> <ul style="list-style-type: none"> ・能登視察のための打合せ ・10月24日～26日能登視察研修 <p><11月></p> <ul style="list-style-type: none"> ・能登視察を振り返る協議 ・3日後避難訓練の企画準備等の協議 <p><12月></p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月14日発災3日後避難対応訓練の実施 ・訓練の反省と次回への準備 <p><1月></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1月16日発災30日後避難対応訓練の実施 ・訓練の反省と今後の展望に係る協議 ・事業のまとめと学習教材の作成

事業目標・事業成果	
事業目標全般 (教育提供者側)	<ul style="list-style-type: none"> ・福浦地区自主防災グループが中心となって、福浦地区や福浦小学校、また愛南町(防災対策課や教育委員会)に働き掛け、発災3日後並びに30日後を想定した避難対応実動訓練を行う。 ・よりリアルで「孤立」も具体的に想定した訓練を実践するために、能登半島へ出向き現状を見るとともに、直接地元の方々からその時の様子や復興への歩みについてお聞きする。 ・訓練の実施に当たって、慶応大学大木ゼミや、愛南町防災アドバイザー等から講評並びに指導をいただく。 ・訓練に係る全てを記録・編集し、防災教育推進のための学習教材(冊子や動画)とする。
事業成果全般 (教育提供者側)	<ul style="list-style-type: none"> ・3日間にわたる能登視察研修により、いまだ生活が戻っていない現状を確認できたとともに、それでも前向きに復興へ歩みを進める地元の方々の元気と笑顔に勇気をいただいた。 ・発災3日後避難対応訓練では、発災直後一番困であろうトイレの事等、訓練で伝えていく事項に優先順位をつけ、メリハリある防災学習へ高めていくことができた。 ・発災30日後をイメージした訓練では、メンタルケアに焦点を当て、肉体的にも精神的にも疲弊している現場で、互いにどんな言葉かけをすればよいのか、様々な立場から検証していくことができた。 ・慶応大学大木聖子准教授や愛南町防災アドバイザーから、地域コミュニティの結いを生かした防災対策についてご指導いただき、これからの訓練や学習への新たな課題が明確となった。
事業目標全般 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> ・福浦地区と大変似通った地形の能登で起きた災害の現実を、具体的に知ることができる。 ・ライフラインが完全に途絶えた発災3日後の様子を想像し、生き延びるために具体的にどんなことに取り組みればよいのかを追体験することができる。 ・避難生活にかなりの疲労がたまってくる発災30日後、他者へどんな言葉かけをしていくことが、よりよい日常の形成につながっていくのか理解する。 ・成果物を具体的に生かし、今後の防災学習へ関して確かな当事者意識を持って臨むとともに、より主体的に活動できるようになって、一人一人の防災意識を着実に高めることができる。
事業成果全般 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> ・未だ復興に時間がかかっている能登の現実を、具体的な映像や現地のの方々へのインタビューによって、臨場感をもって知ることができた。 ・発災直後、絶対に我慢できないトイレの対策について、たくさんの具体例を実体験しながら学んだことにより、いざというときの心構えを自覚できた。 ・発災30日後を想像することも、学校再開初日にランドセルを流されリュックで登校してきた児童への声かけを考える授業等でも、全て理解し寄り添うことは難しいと感じたが、それでも学び続けていくという信念が固まっていった。 ・自分たちの訓練への講評等を聞いて、災害時に何が一番大切で、普段の日常からは何に気をつけておけばよいのか、など互いに確認することができた。 ・自分たちの足跡とも言える成果物(ガイドブック・DVD)は、愛南町全域へ防災学習の大切さを広めていくきっかけになるとともに、自分たちの防災活動を深く見直す機会ともなった。
展開できる 知見やノウハウ	<p>どうしても「自分(たち)は大丈夫」という意識から抜け出せない防災学習にあって、3日後・30日後と焦点化した訓練を実施することで、より具体的でよりリアルな実践が期待できる。</p> <p>そうして、最悪のシナリオ「孤立」に向き合うことへも、地区全住民の真摯な取り組みをもってすれば乗り越えられるという学習事例を創造しプレゼンすることで、これまでずっと課題であった“防災意識の向上”へ必ずつながっていくものとする。</p>
コミュニティ防災教育の重要な観点	<p>今回の避難対応実動訓練は、自主防災グループ発信ながら、町当局や大学、また防災のプロたちと連携しながら行われる。この「つながり」こそが、いざという時に役立つ。</p> <p>それは、地域コミュニティの充実したつながりの醸成と重なる、とも言える。つまり、日常での会話から生まれる対話が大切で、顔と名前が一致する付き合いを常に心掛けている状況がその地区にあれば、発災時確実に住民たちの命を救い、復興もスピード感を持って進められていくのである。</p> <p>また、このコミュニティ防災教育実践は閉じられることなく、愛南町全域へ広げていくことも重要であると考えている。小さな福浦地区の事例だけに、他地域としても取り入れやすく、より具体的に発信することで、大きな波及効果を期待している。</p>


残課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の記録や、指導・講評から、訓練を振り返る学習会を福浦小学校等で重ね、新たな課題を見つけ続けていかねばならない。 ・発災時、3日後、30日後等、様々な時間軸に基づく訓練避難対応訓練は、生活の基盤づくりや学校再開へ向けた取組みをリアルに想像できるものであったが、1度では不十分である。よりリアルな実動訓練の工夫に注力し続けなければならない。 ・最終的な防災意識向上や防災教育の推進に向けた学習教材の活用に関しては、その具体的指導案等まだ十分に協議されていないので、訓練と同時進行で実施へのよりよい手立てを考えていく必要がある。
------	--

■事業内容



事業内容① 能登視察研修	
事業内容①目標 (提供者側)	<ul style="list-style-type: none"> ・能登地震による被害の現状を、現地視察や地域住民へのインタビュー等を通して、深く理解し共感する。 ・同じ境遇の福浦地区をモデルとして、能登の実情を反映させた発災からしばらく経ってからの避難対応実動訓練を企画する。 ・視察の様子は、プレゼンとしてのまとめ、福浦小学校での防災学習会等で紹介し、共感した思いを地元を広げていく。
事業内容①目標 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> ・能登視察報告を受けて、全く同じような状況が福浦地区でも起こることを自覚し、個々の防災意識向上に向けてベクトルを同じくする。 ・訓練の主体者であるという意識を持ち、避難対応実動訓練へ参加する。 ・能登では何が起き何に困ったのか、そして、どう協力して立ち上がってきたのか、を自分事として捉え、福浦地区での自分たちの防災へ生かそうとできる。
事業内容① 実施内容 A…能登視察1日目 (実施日:10/24)	<p>■具体的な取り組み内容</p> <p>志賀町の福浦地区(同じ名前だったので)を最初に訪れた。役場の方々に当時のことを詳細に聞いた。</p> <p>次に遊覧船業者の方に、その仕事の復興はどのように進んでいるのかを聞いた。</p> <p>次に漁協の方に被害と復旧について聞いた。</p> <p>どこの町も私たちの同じスケール感、そして同じように生活をされていたことが分かり、地震被害の様子がいっそう自分事となって伝わってきた。</p> <p>■成果</p> <p>同じ名前、同じ仕事、同じ規模…とすべてが一緒で、全く同じようなことが我々に起こるんだ、と自覚できた。事前の準備の大切さをまじまじと感じた。高齢者の避難やその後の生活についてもっと知りたいと思った。</p>
事業内容① 実施内容 B…能登視察2日目 (実施日:10/25)	<p>■具体的な取り組み内容</p> <p>まず輪島市に移動し、復旧の様子について見学していった。</p> <p>大屋小学校周辺の被害と復興について、避難所を運営していた方々に直接その様子を聞くことができた。</p> <p>散髪屋を営んでおられた親子に、一時避難と二次避難の具体について聞いた。</p> <p>珠洲市へ移動し、被害の状況を見学した。</p> <p>区長さんや仮設住宅に住んでおられる方々にインタビューした。</p> <p>■成果</p> <p>ともかくトイレ問題の解決が一番大事である、とどこでも聞くことができた。生き抜くことは大変なことであるが、過酷な体験ばかりではなく、その時々価値観が変わるような素敵なシーンもあった、と聞いてほっとした。</p>



<p>事業内容①を実施 する中で発生した 課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点 金沢マラソン大会と重なり、宿が輪島から遠く離れた場所となった。移動時間をもたないと感じていた。 十分に事前打ち合わせをする時間なく視察の日を迎えた。</p> <p>■乗り越えた方法 レンタカーをフルに活用して、最短移動路を選んで能登半島へ向かったが、車だったおかげで、途中の被害状況もつづさに観察できた。 こちらが想定している以上に、能登の皆さんが熱い思いで準備をされていて、丁寧に説明してくださったので、豊かな学びを持ち帰ることができた。</p>
<p>事業内容①を実施 する上で工夫した 点</p>	<p>視察する前から、質問事項等を絞り、それに呼応した訪問地区やインタビューする住民の方々を選んでおり、バラエティに富んだ充実の取材ができた。 日程を詳細に組んでいたため、ロスなく能登を廻ることができ、生活道路等の実情や仮設住宅での生活について、じっくりと見聞きすることができた。</p>
<p>事業内容① 残課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・能登視察研修の実情や成果が、福浦地区の全住民の方々へ伝わるような手立てを十分構築できていない。(訓練や学習会に参加されていないの方々へどう伝えるか) ・能登の皆さんから多様なアドバイスや体験談をうかがったが、行政との連携に関しては、そのまま採用できない事例があり、どう取舍選択すればいいのか悩んだ。
<p>事業内容② 発災 3 日後避難対応訓練</p>	
<p>事業内容②目標 (提供者側)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・能登視察研修の成果を映像や資料を基に詳細に地区住民へ伝え、個々の当事者意識や訓練の主体者としての自覚を高める。 ・発災後一番我慢できない困りごとであるトイレ問題について、どう大変なのか理解させ、どうすれば解決できるのか、様々な道具を使って実体験させる。 ・福浦が孤立し、ライフラインが崩壊しても、地区住民全員で助け合えば、必ず乗り越えられることを示す。
<p>事業内容②目標 (参加者側)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・能登の未だ生活再建の見通しが遠い現実から、同じ境遇が予想される福浦地区に住む者として、どんな心構えが必要か感じ取る。 ・福浦地区で大地震発災3日後とはどんな状況となるのか、よりリアルに想像することができる。 ・様々な年代の地域の方々とともに、トイレ問題への具体的対応訓練に主体的に参加し、ともに生き抜く術と希望を獲得する。
<p>事業内容② 実施内容 A…企画 会 (実施日:12/1)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 能登視察についてファイルにまとめ、学んだことや課題を整理した。 どんな報告にするのか、プレゼン内容を検討した。</p> <p>トイレ問題に特化した対応訓練を企画し、様々な実験の内容や、防災トイレの具体的準備について話し合った。 場づくりやシナリオの中身をしっかりとさせることを確認した。</p> <p>■成果 あまりにも能登視察研修での学びや現地の方々との出会いが素晴らしかったため、伝えたい意欲がどんどん高まって、訓練の企画内容がより洗練されていった。</p> <div data-bbox="922 1350 1401 1709" data-label="Image"> </div>

<p>事業内容② 実施内容 B…実際の訓練 (実施日:12/14)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 まず、能登視察研修の報告を、映像をふんだんに取り入れ、リアルな現状を直接伝えた。 能登の方々の誰もが言った、トイレ問題について想像し、どうすればよいか自分たちで考えてみる。そのうえで、能登での解決方法や、様々な簡易トイレの具体を紹介した。 そして、実際の尿や便を想定した簡易実験を行って、より具体で被災時の生活を実体験した。 防災アドバイザーから講評をいただき、地域コミュニティの普段が問われる、ということ改めて学んだ。</p> <p>■成果 お年寄りから幼児までが大勢集まり、自分の言葉で語り合い(対話)ながら、前のめりに訓練に参加されている様子を見て、今回の訓練の成功を感じるとともに、次回訓練への意欲を高めたのだ。</p>	
<p>事業内容②を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点 マイクの活用方法や、ブースの配置などによっては、参加者一人一人へ平等に情報提供ができない場面があった。 3グループへ分かれての実体験訓練であったため、そのグルーピングに悩んだ。</p> <p>■乗り越えた方法 体育館の形状や、参加者の動向を見定め、小学校の先生方に助けてもらいながら最善を尽くした。 グルーピングを心配する前に、地区の方々が最初から前のめりに訓練に参加され、いっぱいしゃべりながら(豊かに対話しながら)学んでくださったので、我々の心配は吹き飛ば形となった。</p>	
<p>事業内容②を実施する上で工夫した点</p>	<p>十分な資料(実験道具や防災器具等)を準備していたので、大勢の参加者にも対応できた。また、ブースを3か所に分け、3人がきめ細かく説明したことで、一人一人へ具体的な内容が伝わっていった。 小学生を参観日の形をとって参加してもらったことで、保護者や祖父母といったつながりある方々も多く来られ、皆さん前のめりに訓練に取り組まれていた。その際、小学校の先生方が率先して裏方に回り、手助けいただいたので、訓練の進行がスムーズで、間延びすることなくプログラムを消化できた。</p>	
<p>事業内容② 残課題等</p>	<p>・トイレ問題一つとってみても、一人一人に対応するには、相当な準備が必要であることが分かり、全住民をあげた協力体制が大切であることを自覚した。 ・物質的に生き抜く訓練が主だったが、次回は弱っていくメンタルをどう立て直していけばいいのか、そういった内容も訓練に加える必要がある。 ・成果物としての学習教材の作成については、プロット等まだ何も決まっていないので、早急に協議する計画を立てたい。</p>	
<p>事業内容③ 発災 30日後避難対応訓練</p>		
<p>事業内容③目標 (提供者側)</p>	<p>・発災30日後疲れがピークにある状況を想起させ、それでも人間が人間らしく避難生活をよりよいものとするために共に生きようとする情操を高める。 ・学校再開初日の様子を想像させて、被災した児童へどのような声かけができるのか、真剣に考えることで、災害に係る当事者意識を高める。 ・肉体的にも精神的にも疲れ切った中でも、福浦地区の住民全員で助け合えば、必ず乗り越えられることを示す。</p>	
<p>事業内容③目標 (参加者側)</p>	<p>・大変つらい状況ではあるが、互いを思いやる優しい心を持ち続けていれば、避難生活も明るい展望を持って過ごしていけることを知る。 ・どれほどメンタルケアが重要なものであることを理解するとともに、それでも他者の痛みを全て理解することは難しいということ想像することができる。 ・よりよいをキーワードに、思いやりある言葉かけの実際を学び、ともに生き抜くためのキーポイントと希望を手にする事ができる。</p>	

<p>事業内容③ 実施内容 A…企画会 (実施日:1/9)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 12月14日の訓練についてファイルにまとめ、学んだことや課題を整理した。 1月16日はどんな訓練にするのか、大木ゼミとともに(オンライン)検討した。 言葉かけに特化した対応訓練を企画し、これからの具体的準備について話し合った。</p> <p>■成果 前回の訓練が大変良かったという高評価に自信を持つとともに、想像したことのない発災30日後の対応訓練に、声かけ授業という具体的アイデアをいただき、ワクワクして準備に取り掛かることができた。</p>	
<p>事業内容③ 実施内容 B…実際の訓練 (実施日:1/16)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 まず、「防災は日常」「防災はつながりから」という大前提を意識するために、福浦の小学生と慶応大学のゼミ生さんたちは、午前中からともに授業を受けたり、一緒に遊んだりして、関係性を深めた。 最初に、能登視察でお世話になった多田さんからオンラインで講義を受けた。 そして、大木ゼミ発案の、発災から1か月後を想定した声かけ授業(メンタルケアを目的とした)を実践した。 その後大木先生と井村アドバイザーより、解説と講評をいただいた。</p> <p>■成果 お年寄りが大勢集まり、子どもたちと一緒にあって、発災30日後の福浦地区の状況を想像していった。福浦ならではの豊かな関係性に裏付けられた声かけが表出され、辛い避難生活へも前向きに取り組もうとする意欲を高めることができた。</p>	
<p>事業内容③を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点 声かけ授業での場面設定の確認に時間が掛けられず、発災30日後のイメージも、声をかける対象である子どもの背景も、特に地域の皆さんには十分に伝わっていなかった。いわゆる「学びの必然化」に悩んだ。</p> <p>■乗り越えた方法 T1の進行に合わせ、各グループに学生や教員等を配置し、そのグループ学習の前段や途中で、できる限りのフォローをしていった。 子どもたちは、道徳の授業での役割演技のようにごく自然に入り込んでいた。</p>	
<p>事業内容③を実施する上で工夫した点</p>	<p>能登視察でお世話になった多田さんから、避難所運営の苦労や工夫が、具体的に語られたおかげで、福浦地区の方々に「ここが大事なんだ!」というポイントを一つ一つ押さえていくことができた。 初の試みであった声かけ授業(メンタルケアを目的とした)では、一目で興味・関心をひくように、よりリアルなイラストを採用したプリントが用意された。 授業で不十分だったところを、大木先生の解説と、井村アドバイザーの講評でフォローしていった。</p>	
<p>事業内容③ 残課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発災1か月後の状況をイメージするのは、容易ではなく、かなり周到な準備が必要であることが分かった。 ・初めての試みであった以上、今後のブラッシュアップこそが重要であると考えている。学校や公民館等で、何度も訓練していきたい。 ・成果物としての学習教材へ、この訓練の状況だけでなく、声かけ授業の指導資料そのものも掲載したい。 	
<p>事業内容④ 学習教材の作成</p>		

<p>事業内容④目標 (提供者側)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・能登視察研修の成果や、発災3日後・30日後避難対応訓練の具体を、映像や資料を基に詳細にまとめ、ガイドブックとDVDを作成する。 ・その成果物を福浦地区の全住民へ伝え、当事者意識や防災訓練の主体者としての自覚をさらに高める。 ・成果物の量は、愛南町全域へ学びを広めるのに十分なものを用意し、全校・全公民館へ配布し、防災学習教材として活用していただく。
<p>事業内容④目標 (参加者側)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手に取って見やすい20ページのガイドブックが提供される。それが、子どもからお年寄りまで、気軽にそして日常的に、読み・学ぶことができる教材となる。 ・500部のガイドブック、50枚のDVDは、教育委員会や防災対策課によって全校・全公民館へ配布され、町全体の防災意識・防災力の向上に寄与するはずである。 ・福浦地区の全戸へガイドブックは配布される。改めて防災の基盤を学び直すことができるだろう。そしてこれは、10年続いた活動が実を結んだ一つの形にもなり、地区住民の誇りにもなるであろう。
<p>事業内容④ 実施内容 A…ガイドブックの作成</p>	<div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p>■具体的な取り組み内容</p> <p>本事業の具体的な内容を、文字や写真やイラスト等でまとめる。</p> <p>目次…</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 福浦ギャルズとは“…これまでの活動実践 2 能登視察研修の実際 3 発災3日後避難対応訓練の実際 4 発災30日後避難対応訓練の実際 5 活動の成果と課題 <ul style="list-style-type: none"> ・福浦ギャルズからの5つの提案 ・防災ポーチに関するチェックシート <p>■成果</p> <p>言葉の一つ一つ、表示の一つ一つにまで注意を払い、正確に最大に想いが伝わるよう再校を重ねた。その結果、福浦ギャルズらし温かく使いやすいガイドブックとなった。20ページに収め、写真やイラストをふんだんに使ったことで、手に取りやすい一冊となった。</p> </div> <div style="flex: 1; text-align: center;">  </div> </div>
<p>事業内容④ 実施内容 B…DVDの作成</p>	<div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p>■具体的な取り組み内容</p> <p>防災学習に生きて働くよう、映像を重視したDVD学習教材を作成した。【主な収録内容はこちら】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① オープニング ② 福浦地区 自主防災会とは ③ 10年間の活動の歩み ④ 能登半島地震から学んだこと ⑤ 能登半島地震 被災状況 ⑥ 発災3日後・30日後を考える訓練とは ⑦ 発災3日後を考える学習会 ⑧ 交流会(学生と児童) ⑨ 発災30日後を考える学習会 ⑩ 専門家の言葉 ⑪ 活動を続ける人たちの思い ⑫ エンディング 収録時間:約20分 <p>■成果</p> <p>小学校高学年から大人まで、防災について考えやすい教材となった。次のような活用方法があると思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での防災学習の導入教材として ・公民館での地域防災研修会に ・自主防災組織での話し合いのきっかけに ・家庭での防災について考える機会に ・視聴後の話し合いのヒント </div> <div style="flex: 1; text-align: center;">  </div> </div>

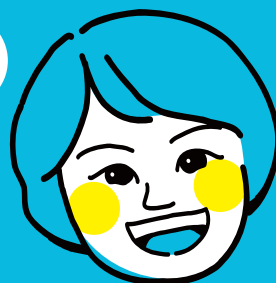
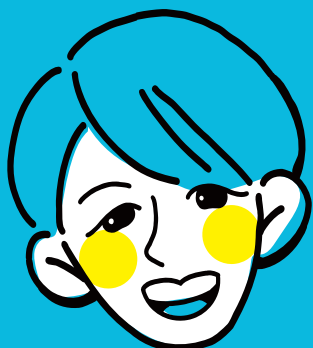
<p>事業内容④を実施 する中で発生した 課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点 実際に活動している福浦ギャルズの想いが、試作されて形となってくる冊子や動画に、十分反映されていないことも多々あり、何度も業者の担当者とやり取りすることとなった。 実物を見てその色彩や質感に違和感を覚え、再校をお願いすることも多かった。</p> <p>■乗り越えた方法 冊子、動画それぞれの作成担当者は、私たちの要望に何度でも応え、想定以上の再案を提出して下さった。 これを見る側の視点に常に立ち、手に取りやすく分かりやすい！というものを追い求めていった。</p>
<p>事業内容④を実施 する上で工夫した 点</p>	<p>気軽に使える教材、日常化しやすいもの、というコンセプトを掲げ、ガイドブックは20ページ、イラストや写真をたくさん使って手に取りやすく見やすくする。DVDは、福浦ギャルズの10年の歩みを物語のように表現する。それを20分にまとめ、学習教材として活用しやすくした。 愛南町全体への学びの広がりも意識し、子どもからお年寄りまで親しんで学習できるよう、文字の大きさにも気を配り、ルビを打ったりナレーションを入れたりする工夫も重ねた。</p>
<p>事業内容④ 残課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一切妥協せず、納得いくまで再校していった。作成に関わってくださった方には本当に感謝している。しかし、いざ出来上がり、使おうとしたとき、効果的に伝わらないだろうと思われる部分も見える。 ・この教材を使う側の留意点は、これからの実践の中で見えてくる。指導方法の工夫が今後の重要課題である。 ・10年間の足跡は確かに刻むことができた。ただ、これからの10年こそが大事である。20年間でまとめる成果物をぜひ作成したいものである。

福浦を守る！生きる！



福浦ガールズの

防災



きょういくかつどうじっせんきろく
教育活動実践記録

わたし ふくうらちいき ないかくふ れいわ ねんど ちいきぼうさいりょく こうじょう
私たち福浦地域は、内閣府により、令和7年度地域防災力の向上に
し ぼうさいきょういくすいしんじぎょう ちく えら
資するコミュニティ防災教育推進事業のモデル地区に選ばれました！

これまで、**福浦地区自主防災グループ「福浦ガールズ」**は、
さまざま と く じっせん
様々な取り組みを実践してきました。

こんねんど とく さいがいひなん せいかつ たいおうじつどうくんれん
今年度は特に「災害避難(生活)対応実動訓練」にチャレンジしました。

ほんし ないよう ぼうさいきょういくきょうざい きろく
本誌は、その内容を**防災教育教材として記録したガイドブック**です。

さくせい
作成

ふくうらしじゅぼうさい あいなんちょうきょういくいいんかい
福浦自主防災グループ・愛南町教育委員会

ページを▶▶▶
めくってみよう！

わたし すす
 私たちの住むまち
 ふくaura
 “福浦”って
 こんなところ



あいなんちょう
 愛南町の
 せんたん
 先端



ふくaura ちく しょうかい
 福浦地区の紹介

- ばしよ 所 にしうみほんとう ふなこしほんとう ひがしがわ
 西海半島(船越半島)の東側
- じんこう 人口 やく450名・やく220世帯
- こうれいかりつ 高齢化率 ぱーせんといじょう
 60%以上
- おもさんざんぎょう 主な産業 ようしよくぎょう つ とせん
 養殖業・釣り・渡船など

へいじ 平時でも愛南町の
 しゅうどうろ 主要道路(国道56号線)まで
 ごうせん
 車で20分
 あいなんちょうやくば 愛南町役場までは車で約25分
 くるま やく ふん



南海トラフ大地震なんかい だいじしんが起きたら？

[愛南町あいなんちょうにおける被害想定ひがいそうてい]

今後こんご30年ねんで、マグニチュード8～9規模きぼの
大きな地震じしんが起きる確率かくりつは **60～90%** パーセント

その際の津波つなみの最大さいだいの高さたかは **約17m!** メートル

津波到達時間つなみ とうたつじかんは **約13分!** ふん

しゅってん くにほっぴょう
出典：R7.3.31 国発表



“もしも”に備えてそな、こんな取り組みとくをしているよ！



ふくうら にしだにしよう ぼうさいこうりゅうがくしゅうかい
福浦小と西谷小との防災交流学習会



じさく だん ほっぴょうかい
自作段ボールトイレ発表会

もくじ 目次

- 1 “福浦ギャルズ”とは…!? これまでの活動実践 4 ページ
 - 2 能登視察研修の実際 6 ページ
 - 3 発災3日後避難対応訓練の実際 10 ページ
 - 4 発災30日後避難対応訓練の実際 13 ページ
 - 5 活動の成果と課題〈福浦ギャルズインタビュー〉 17 ページ
- あとがき〈Special Thanks〉 18 ページ
- 福浦ギャルズからの5つの提案 19 ページ
- 防災ポーチに関するチェックシート 20 ページ

1 “福浦ギャルズ”とは…!?

これまでの活動実践



わたし ふくうらちくじしゅぼうさい ふうしやう ふくうら ねんまえ あい
 私たち福浦地区自主防災*グループ=通称「福浦ギャルズ」は、10年前に愛
 なんちやう きやういくいんかい しゅさいじぎやう だいひやう ひがしにほんだいしんさい ひさいち
 南町教育委員会の主催事業により、PTAを代表して東日本大震災*の被災地を
 めく けんしやう さんか いらい たいせつ ひと まも かだいいしき
 巡る研修に参加しました。それ以来、大切な人・ふるさとを守る、と課題意識
 たか わたし ふくうらちく さまざま ぼしよ ぼうさいがくしやうかい くんれん まいつき つづ
 を高めた私たちは、福浦地区の様々な場所での防災学習会(訓練も)を毎月続け
 ねんかん かく くちやう まちとうきやく れんたい きやうりやく さんか
 ています。10年間のうちに各区長さんや町当局との連携・協力によって、参加
 しゃ きやうりやくしゃ ふ がくしやうかい ないやう ふか ひなんろ せいび ゆうどうとう せつ
 者や協力者が増え、学習会の内容も深まっていき、避難路の整備や誘導灯の設
 ち ぐたいてき じぎやう かたち
 置など具体的な事業も形となったのです。

ふくうらしやうがっこう せんせい がたがた いっしよ ぼうさい あん
 福浦小学校の先生方も防災教育に熱心で、地域の方々と一緒になって防災安
 ぜん さくせい なか もんぶかがくだいじんしやう じゅしやう ことし
 全マップを作成する中で、文部科学大臣賞を受賞することもありました。今年は、
 わたし そうごうてき がくしやう じかん はい かい ぼうさいじゆぎやう きかく じっせん
 私たちが総合的な学習の時間へ入り、20回の防災授業を企画・実践しています。

🔑 キーワード.....

- *1 **自主防災** 「自分たちの地域は自分たちで守る」…自主防災組織とは、災害対策基本法第5条2において規定されている、地域住民の共助による自発的な防災組織のことである。
- *2 **東日本大震災** 2011年3月11日に発生したマグニチュード9.0の巨大地震で、津波や原発事故を引き起こし、甚大な被害をもたらした。

しゃしん ふくaura かっどう
写真でみる！福浦ギャルズの活動

よる ひなんくんれん
夜の避難訓練



なに よる ひなんくんれん
何より夜の避難訓練がしたかったです。
なんど あたら かだい み
何度やっても新しい課題が見つかります。

せつえいくんれん
テント設営訓練



あまかぜ だいじ いろいろ しゅ
雨風をしのぐって大事です。色々な種
るい せつえい とく く
類のテント設営に取り組みました。

ぼうさいがくしゅうかい
防災学習会



ひがしにほんだいしんさい つかさど とうほくしざつけんしゅうほうこく
東日本大震災に係る東北視察研修報告
はじ がくしゅうかい じょじょ さんか
から始まった学習会です。徐々に参加
しゃ ふ
者が増えています。

かぐ こてい てつだ
家具固定手伝い



かぐ こてい きほんちゅう きほん まち
家具固定は基本中の基本です。町から
ほじょきん
の補助金もありますが、せっち
てつだ
も手伝っています。

ぼうさい つく
防災マップ作り



ふくauraしょうがっこう でんどう
福浦小学校の伝統にもなっています。
もんぶかがくだいじんしょう じゅしょう
文部科学大臣賞も受賞しました。

ついでう
3/11追悼

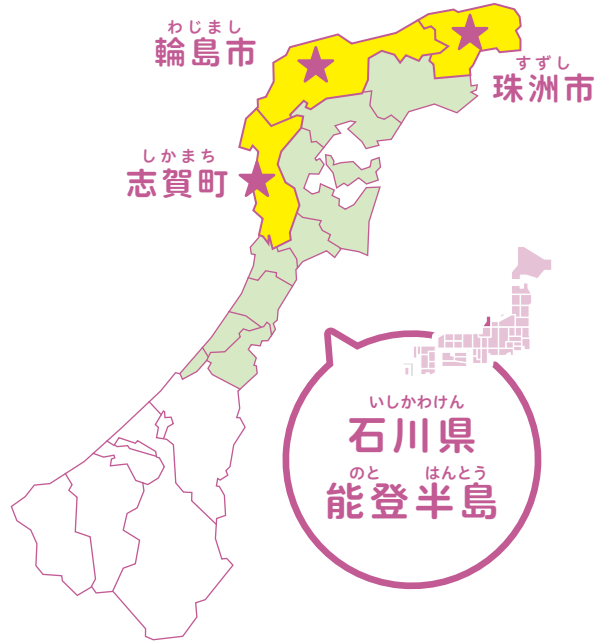


まいとし がつ にち おとな こ いっしょ
毎年3月11日には、大人も子どもも一緒に
なつて ついでう あ とも
なって追悼の明かりを灯していました。

のと しさつけんしゅう じっさい 能登視察研修の実際

しさつ もくてき 1. 視察の目的

おとし のとはんとうじしん さいがいじょうきょう
一昨年の能登半島地震による災害状況
を見ていて、全く同じ地域性を持つ愛南
ちょう ふくうら では、「孤立」が大きな課題と
なると考えました。そこで、能登地震に
よる被害の現状を、現地視察等によって
深く理解することとしたのです。



しさつけんしゅう きろく 2. 視察研修の記録

いちにちめ 1日目 しかまち 志賀町



はまむら おおいえ はなし き
濱村さん、大家さんからお話を聴く



まった おな じ ちめい ふくら
全く同じ字の地名「福浦」

かめ 2日目 わじまし 輪島市 すずし 珠洲市



おやしやうがっこう さわだ
大屋小学校で澤田さんたちと！

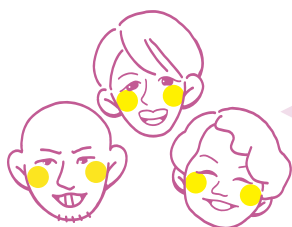


さんばつや やまぐち おやこ
散髪屋の山口さん親子と！

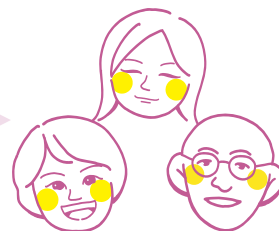
★クイズ

下の2枚の写真は、「志賀町福浦」と「愛南町福浦」の海の景色です。

さて、私たちの住む「愛南町福浦」の景色はAとBどちらでしょうか？



しさと にちめ おとす しまち
視察1日目に訪れた志賀町！
 ふくら さいかい ちめい けしき
 福浦や西海という地名も景色も
 まさにそっくりでびっくり！



正解：B



いしかわけんぎょきょうさいかいししょ じゃま
石川県漁協西海支所へお邪魔して



ふくらみなと
福浦港でハイポーズ！



すずし ひがい ようす
珠洲市の被害の様子



せんまいだ おお ひがい
千枚田にも大きな被害が！

3. 能登視察研修から見えてきたもの



ふだん かいわ たいわ かお なまえ
 普段の会話(対話)、顔と名前
 いっち かんけい ちいき
 が一致する関係など、**地域**
 コミュニティの**充実**こそが、
 とき もっと たいせつ
 いざという時に最も大切である!

ひなん せいかつ
 避難してからの生活で
 いちばん くらう
一番苦勞するのは
「トイレ」の
 こと!



こ ちから
子どもたちの力
 おお
 は大きい!



ちいきじゅうみん ぎょうせい
地域住民と行政
 かんけい よ
との関係が良いか
 わる おお
 悪いか、ここで大き
 か
 く変わる!

ねん た ちち
 2年経っても遅々と
 すず げんじつ
 して**進まない現実**
 がある!



もとしょうちゅうがくこうちよう もとぎょういくちよう ただ
元小中学校長・元教育長の多田さんと!



かせつじゅうたく たず
仮設住宅を訪ねて!



がんたん しょうがっこう にん あつ
 元旦、小学校に500人が集まってきてあふれかえる避難所。未だ活気を失ったままの街。
 どうじしゃ わ ふあん ふまん き じっかん ひさいご せいかつ
 当事者でしか分からない不安と不満。ここに来たからこそ実感できた被災後の生活。まだ
 じかん ゆうよ あたえ わたし ふくうら
 時間の猶予を与えられている私たち(福浦ギャルズ)にできることを精一杯に!と心に誓う。

4. 福浦地域との共通点は？

そして、改めて感じた福浦地域の防災に関する課題は？

共通点

- 地形も同じ、地名も同じ！
- 分断・孤立し、1か月以上自分たちで生き抜く必要がある。

課題

- トイレに関する実地訓練が足りていない。
- 長期化する避難生活への対応訓練ができていない。



福浦と全く変わらない港の風景



未だに残る地震の爪痕

5. 視察を経てチャレンジしようとする災害対応訓練とは？



はっさい か ご ひなんたいおうくんれん
発災3日後避難対応訓練

なら 並びに

はっさい にち ご ひなんたいおうくんれん
発災30日後避難対応訓練

じっけん
実験も！



たいけん
体験も！



はっさい か ご ひなんたいおうじつどうくんれん もくてき がいよう
発災 3 日後避難対応実動訓練の目的と概要にちじ ねん がつ にち ぼしよ ふくうらしょうがっこうたいいくかん さんかにんずう やく めい
日時：2025年12月14日 場所：福浦小学校体育館 参加人数：約100名

発災*からしばらく経ってからの避難対応実動訓練を企画することとしました。愛南町教育委員会や愛南町防災対策課等とも連携し、自然災害後に孤立した地域において、生き抜くための支え合いや情報の獲得・伝達、また学校再開等にも焦点を当てたいと考えました。ライフラインが完全に破壊された状況の中で、どう生きてどう立ち上がっていくのか、様々なシーンを想像し、様々な視点を持って対応する訓練を企画・実践します。特に、トイレに関する実施訓練に力を入れることとしました。

★あなたも考えてみましょう！

南海トラフ大地震かんがえが起きました。3日後のあなたの住む地区や避難所ひなんじよの様子はどうなっているでしょう？（思いおもつくことを書いてください。）

🔑 キーワード

* 発災はっさい 災害が発生すること。この訓練では、南海トラフ大地震なんかい だいじしんが起きたとして、家屋倒壊かおくとうかいや大津波おおつなみなどの被害ひがいが出ていると想定そうていした。

しゃしん くねん ようす
写真でみる！訓練の様子

さいしょ べんとう
最初はみんなでお弁当



がくしゅうはっぴようかい あと たい
学習発表会の後、みんながそのまま体
いくかん のこ べんとう た きん
育館に残ってお弁当を食べました。近
しょのみんながあつまって、ハイポーズ！

のと しさつけんしゅう ほうこく
能登視察研修の報告



のと げんじょう としき えいぞう じもと
能登の現状を、その時の映像と地元の
かたがた ほうこく おま
方々へのインタビューを織り交ぜなが
ら報告しました。

べつ はなしあ
グループ別の話し合い



なんかい だいじしん かご ふくうらち
南海トラフ大地震から3日後の福浦地
く ようす そうぞう こ
区の様子を想像しましょう！子どもも
おとな いっしょ かんがえ
大人も一緒に考えます。

はなしあ ようす しょうかい
話し合いの様子を紹介



はなしあ
ホワイトボードにまとめた話し合いの
けっか ちゅうがくせい ほっぴよう
結果を中学生が発表してくれました。

いろいろ かんい
色々な簡易トイレづくり



てづく きせいひん
手作りから既製品まで、ありとあらゆる
かんいぼうさい しょうかい
簡易防災トイレについて紹介しました。

つく すわ
作ったトイレに座ったよ



おとな の ぜんぜんだいじょうぶ
大人が乗っても全然大丈夫！でも、ズ
ボンを脱いで…だから寒いかも！？

2025年12月14日の訓練の体験記

家族でこの日の訓練のことを話し合いたい。まだできていないけど…。

自衛隊の方々のサポート情報に少しほっとした。

ここ福浦では、孤立・分断は絶対避けられないなあ。

能登は2年が経とうとしているのに、まだまだの部分があるんだと聞いて驚いた。

トイレのことがあんなにも大変なことだとはびっくりした。

人と人の横のつながりが大切だなあ、と改めて感じた。



訓練の講評並びに見えてきた課題

講評

- 参加者全員が、こんなにも笑顔で、こんなにも前のめりに取り組んでいる訓練(防災学習)に感動した！
- 現実には想定以上に厳しく、死傷者や倒壊家屋への対応は膨大なものとなる。ただ、自衛隊は、少人数ながらも発災直後に必ずやってくる。そして追って愛南町の場合は北海道部隊が応援にやってくる。それでも、必ず自分たちで生き抜くんだ、という気力と信念が必要である。

課題

- まだこの訓練にも多くの方々が参加できていない、地域の全住民へ防災意識の向上が図られてやっとゴールが見えてくるのだ。

はっさい 30日 後にち ご ひなんたいおうじつどうくんれん もくてき がいよう
発災30日後避難対応実動訓練の目的と概要にちじ ねん がつ にち ぼしよ ふくうらしょうがっこうたもくてきしつ さんかにんずう やく めい
日時：2026年1月16日 場所：福浦小学校多目的室 参加人数：約70名

はっさい げつ ご ひろうかん ぐたいてき お よ
発災して1か月後には、かなりの疲労感が具体的に押し寄せてくるでしょう。

こころ からだ いまいちど まえむ ひなんたいおうじつどうくんれん きかく
心も体も今一度前向きになれるよう、避難対応実動訓練を企画しました。その

さい しどう けいおうぎじゅくだいがく おおきさとこ じゅんぎょうじゅ しどう きょう
際には、これまで指導いただいている慶應義塾大学 大木聖子准教授の指導・協

りよく あお
力を仰ぎました。

かんがえ
★あなたも考えてみましょう！

なんかい だいじしん お にちご ひなんじょ ようす
南海トラフ大地震が起きました。30日後あなたの避難所の様子はどう

なっているでしょう？また、この30日間の間にどんな不安や希望が生ま

れてくるのでしょうか？（思いつくことを書いてください）

ひなんじょ ようす そうぞう
①避難所の様子を想像

にち あいだ ふあん きぼう み
② 30日の間に、どんな不安が？どんな希望が？見えてくるのでしょうか。

しゃしん くんれん ようす
写真でみる！訓練の様子

こ どもたちによる ふ にかえ
振り返り



かい じっし ことし ぼうさいがくしゅう
20回実施した今年の防災学習のこ
しょうかい
も紹介してくれました。

けいおうだいがくせい ふくうらしょう こ
慶應大学生と福浦小の子どもたち



あさ いっしょ こうりゅう
朝から一緒に交流しているので、もう
なかよ
仲良しです。

おおきさとこじゅんきょうじゅ かいせつ
大木聖子准教授の解説



にほん はじ そうてい
日本で初めてメンタルケアを想定した
こえ じゅぎょう じっし
声かけ授業を実施しました。

ただ はなし き じゅうみん
多田さんの話を聴く住民



のと ただ さんか
能登の多田さんにリモート参加してい
ひなんじょうんえい むずか
ただきました。避難所運営の難しさに
おお ふくうら ひと
大きくうなずく福浦の人たち。

かん
メンタルケアに関するワークショップ



こえ よ まよ
どんな声かけが良いのか、迷いながら
はな あ
話し合っています。

いむら こうひょう
井村アドバイザーの講評



こりつ ぶんたん そうてい みんな ささ
孤立・分断を想定して、でも皆で支え
あ い ぬ
合って生き抜きましょう。



けいおうぎじゅくだいがく おおき はつあん
慶應義塾大学大木ゼミが発案

はっさい にち ご もくてき
「発災30日後のメンタルケアを目的とした、
よりのい 声かけについて話し合う授業！」

「これからどうなっていくのだろうか？先が見えてこない。」ということが見え
てくるこの時期、互いにどんな声かけがよりよいものなのか、様々な場面を想
定して考えていきます。例えば、次のようなケースでは…？

がっこうさいかい にちめ たかはしせんせい かいわ
学校再開1日目の高橋先生とミナトさんの会話

たかはしせんせい
高橋先生

だいじょうぶ
ミナトさんは大丈夫だった？

いえ のこ かぞく だいじょうぶ
家も残ったし家族も大丈夫でした

つら
辛いことがあったら言ってね

いへ なが かた ほう つら
家が流された方の方が辛いと
おも 思うので僕はまだましです

かんが
(★ここを考える)

ミナトさん

かんが
★あなたも考えてみましょう！

たかはしせんせい
高橋先生はどんな声かけをしたら良いのでしょうか？
あなたならどうしますか？

2026年1月16日の訓練の体験記

○ はっさいご
発災後には、**マスク**
たいおう
ミ対応のこともかんが
え
ておかねばならないん
だ、と分かった。

だい
40代から60代の
ひと
人たちの関わりが
ぼうさい
もっとあると、**防災**
じゅうじつ
が充実してくる。

ほか
他にも**いろいろな訓練**
ぼうさいがくしゅう
(**防災学習**)がしてみたい。
やす ひ こうえん あそ
休みの日に公園で遊んで
いるときとか。

ただ はなし なか ほんぶ がっこう
多田さんのお話の中で、本部を学校の
げんかん つく くつばこ しょういせいり つか
玄関に作り、靴箱を書類整理に使った
…なんて**実にリアルな実情**だった。

しんじょう かた
心情を語らせることはできるかもし
れない。でも、本当に大事なものは「**語**
だ
り出す!」ことを促すことなんだ。

こえ むずか
声かけは難しい。その子どもの背景
そうぞう ほんとう わ
を想像しようとするけれど、本当には分
かり切れない。私はきっと何も言えな
い。ぎゅっと抱きしめるしかできない。

こ なか
子どもたちの中から、**もっともっと**
ぼうさい まな おも
防災について学びたい、という思
いがあふれてきた。来年度も福浦ギャ
ルズとともに**学習**していきたい。

訓練の講評並びに見えてきた課題

こうひょう 講評

- けいおうぎじゅくだいがく がくせい しんけん じゅぎょう
慶応義塾大学の学生さんたちが**真剣**につくったこの授業プ
ログラムは、**今後**どんどんブラッシュアップされて、**全国**
へ広がっていく。素晴らしいことだ。
- ふくうら ねんつづ ぼうさいがくしゅう ひ ひ
“福浦ギャルズ”がこの10年続けてきた**防災学習**は、日に日
に進化している。そして、多くの人たちがそれに協力して
いる。何より、福浦の方々が、常に前のめりに、明るく、
こんきづよ さんか べんきょう ささ あ ぼう
根気強く、参加し勉強している。この支え合いながらの防
さいかつどう つづ ねが
災活動が、これからもずっと**続いていく**ことを願っている。

かだい 課題

- ぼうさいきょういく あいなんちょう まち えいきょう
防災教育が、さらに愛南町のよりよい街づくりへも影響し
ていくよう、今回の事業成果が他方面に生かされて初めて
ゴールが見えてくるのだ。

5

活動の成果と課題

ふくaura 福浦ギャルズインタビュー

まつだ 松田さん



より自分事として！

のと まな とお ふくauraしよう じどう きょうしやくいん ちいぎじゅうみん はっさい か ご 能登での学びを通して、福浦小の児童たち、教職員、地域住民と、発災3日後、30日後の訓練を体験できたことにより、難題を共有し、一つずつ丁寧に解決していくことで、より自分事として捉えることができました。日頃からの挨拶や声かけ、そして地域行事を大切に、**人と人のつながりをつくっていくこと**が、事前復興であることにも気付くことができました。10年間の活動の答え合わせをする機会をいただいたこと、能登の方たちとのご縁、そして大切な仲間へ感謝し、これからも課題を探し続けていこうと思います。

わたし かつどう おこな なか たいせつ ひと かが わたし ひとり 私たちが活動を行う中で大切にしているものが、人との関わりです。私は一人で生きていけません。いつも誰かに助けてもらっているし、自分自身も誰かのために「何ができるかな」と考えています。人とのつながりを大切に過ごそううちに、大好きな人たちが増え、大切な場所ができました。今回能登半島視察に行かせてもらって、能登の皆さんが「人のつながりに助けられた」と言っている方が多く、私たちがやってきたことは正しかったんだ、と思うことができました。このつながりを絶やさないように、**大切に大切に日々を過ごそう**と心に決めました。

すが はら 菅原さん



つながりを大切に！

おおにし 大西さん



後悔がないように！

わたし もともと しぜん かな さいがい しんけん かが にんげん 私は元々『自然には敵わない』と、災害について真剣に考えたことのない人間でした。福浦で働き、福浦地区のことに関わり、災害や防災について学んでいく中で、**きちんと準備をしていけば生きていける**かもしれない、と希望を持てるようになりました。被災した経験を伝えてくださる方、災害を研究している方、自主防災活動に協力してくれるたくさんの方たちに感謝をし、後悔がないように生きるため活動を続けていきたいです。

ぼうさいたいさくか おがわ 防災対策課 小川さんからのメッセージ

じぎょう あいなちようぼうさいたいさくか みな ぜんめんでき きょうりよく この事業には、愛南町防災対策課の皆さんが全面的に協力していただきました。

こんかい しさつ たいさく にんげんかんけい じゅうようせい つうかん とく ひなんせいかつ ちようきか なか 今回の視察では、「**トイレ対策**」と「**人間関係**」の重要性を痛感しました。特に、避難生活が長期化する中で、「その人の人間性が出る」という言葉が印象的でした。日頃の備えに加え、発災後にいかに助け合えるかが、多くのいのちけんこう まも かぎ へいじ じゅうみんどうし ぎょうせい かお み かんけい ていねい きづ まちぜんたい 命と健康を守る鍵になります。平時から住民同士や行政との「顔の見える関係」を丁寧に築くことが、町全体のぼうさいりよくたか こんかい きちよう まな ちようない たちく ひろ きょうりよく おも の防災力を高めることにつながります。今回の貴重な学びを町内の他地区へも広く共有していきたいと思っています。

Special Thanks!

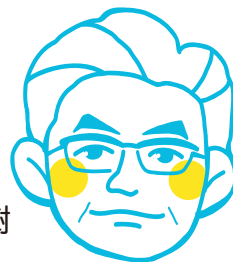
あいなんちょうきょういくいいんかい なかお きょういくちょう
愛南町教育委員会の中尾です。教育長としてではなく、この
じぎょう じむきょく たんとう い つ
事業の事務局としてあとがきを担当します。まずは言い尽くせ
ないほどの心からの感謝を！

のとしさつけんしゅう せわ しかまち おおいえ はまむら
能登視察研修でお世話になった志賀町の大家さん、濱村さん、
ほんだ きたに おかもと わじまし やまくち さわだ
本多さん、木谷さん、岡本さん。輪島市の山口さん、澤田さん。
すずし ただ とつぜん いらい せいしんせい
珠洲市の多田さん。突然の依頼にもかかわらず、誠心誠意
たいおう まこと あいなんちょうぼうさい
のご対応、誠にありがとうございました。また、愛南町防災ア
ドバイザーの井村講師には、2度の訓練ともの確なご講評をい
ただき大変勉強になりました。そして、すでに10年以上ご指導
たいへんべんきょう ねん いじょう しどう
いただいている慶應義塾大学の^{けいおうぎじゅくだいがく}大木先生並びに^{おおき せみ}大木ゼミの皆さ
んには、メンタルケアに^{つかさど あら}係る新たな^{ぼうさいじゅぎょう}防災授業プログラムを^{じっせん}実践
いただきました。本当に感謝申し上げます。

さて、教育は人間が困難に打ち勝つための最良の装備だとい
われます。“福浦ギャルズ”は、^{ふくうら}福浦地区の^{みな}皆さんが^{おお}大きな^{さいがい}災害
^{ちよくめん}に直面しても、^{まえむ}前向きに^{きぼう}希望を持ちつつ^{いぬ}生き抜くことができる
よう、^{さいこう}最高の^{そうび}装備を^{こうちく}構築しようとしています。最後に、^{さいご}彼女た
ちへの^{れい}お礼をこの^そあとがきに^{とど}添えて^{おも}届けたいと思います。

いつも…ずっと…ありがとうございます！

あいなんちょうきょういくいいんかい きょういくちょう なかおしげき
愛南町教育委員会 教育長 中尾 茂樹



★福浦ギャルズからの質問

あなたが生活の中で大切にしているものは何ですか？

大切なものを守るために行動する！

これが福浦ギャルズの原点です！

か
書いてみましょう

福浦ギャルズからの

5つの提案



1

げんき
元気にあいさつ
をしよう

す
住んでいる街の人たちとしっかりつな
がっていること、これが何より大事です。

2

ぼうさいさんぽ
防災散歩をしよう

す
まずは住んでいる街のすばらしさ、街の
危険について詳しく知りましょう。足腰
も鍛えられて避難も迅速に。

3

ぼうさい
防災かぞく会議
をしよう

もしもの時^{とき}にどうするのか、家族^{かぞく}の中^{なか}で
話し合^{はな}っておきま^あしょう。やっぱり対^{たい}話^わ
が大事^{だいじ}です。と^あっても安^{あん}心^{しん}します。

4

ぼうさい
防災リュックの
チェックリスト
を更新^{こうしん}しよう

せっかく準備^{じゅんび}した防災リュックも
中身^{なかみ}を更新^{こうしん}しないと意味^{いみ}がありま
せん。チェックリスト^{ちくけいりすと}を使^{つか}って、
すべての防災リュック・ポーチ^{ぽーち}を
確認^{かくにん}しまし^まょう。

★チェックリストは次のページへ！

5

くんれん
トイレ訓練をしよう

防災用の簡易^{かんい}トイレは避難グッズ^{ひなん}の中^{なか}にも
入^{はい}っているとおも^{おも}います。一度^{いちど}本^{ほん}当^{とう}に試^{ため}してみ
ま^ましょう。や^やって^わみ^わない^わと分^わかり^かい^かま^ません。も
しもの時^{とき}はず^ぜつ^つとお世^せ話^わにな^なり^りま^ます。1回^{いちど}1回^{いちど}
丁寧^{ていねい}に始^{しま}つ^つを^をしま^ましょう。み^みん^んな^なで^でつ^つか^かう^うト
イレ^いの^の場^ば合^あい、次^{つぎ}の^の人^{ひと}の^のた^ため^めに^にき^きれ^れい^いに^に掃^{そう}除^じ
てお^おき^きま^ましょう。健^{けん}康^{こう}は^はト^トイ^イレ^レか^から^ら！！

けつきよく ぼうさい ひと ぼうさい にちじょう
結局、「防災は人！」「防災は日常！」です。

せいがい まな つづ
正解などはなく、学び続けるしかないのです。

いま
やってみよう！今すぐ
はじめられること！

ぼうさい 防災ポーチ

チェック
リスト



がいしゅつじ ひさい ととき
外出時に被災した時や、もしもの時のためにいつでもどこにいて
て とど ぼうさいたいさく
も手が届く防災対策です。普段使っているバッグの中や、移
どう
動ポケットの中に入れておく携^{けいたい}帯タイプのミニ防災グッズ
で、中身を自分流にカスタマイズできるところが魅力です。
こ
お子さんの年齢や季節によって持ち物も変わりますので、
ていきてき みなお
定期的に見直すようにしましょう。

おも 主に入れるもの

れんらくさき
連絡先

きんきゅうれんらくさき おとな じぶん かくにん こ ひと かくにん
緊急連絡先のメモ(大人は自分が確認するために、子どもは人に確認してもらうために)

しょくりょう
食料

かし た な あめ
お菓子(食べ慣れているもの)、カロリーメイト、飴など

にちようひん
日用品

こぜに ぶくろ ほおん
小銭、ペン、ビニール袋、マスク、アルミ保温シート、ウェットティッシュ、ホイッスル、
せいりようひん じょうびやく ぼんそうこう
生理用品、常備薬、絆創膏、ミニライト、モバイルバッテリー

▲家族やペットの写真など、「ホッとするもの」を入れることが大事なポイントです！

かんがえ
★考えましょう！

じっさい ぼうさい い
実際に防災ポーチをつくるとしたらどんなものを入れますか？
チェックリストに書き込んでみましょう！

あなたのぼうさい 防災ポーチ - 入れるものリスト -

- きんきゅうれんらくさき
 緊急連絡先メモ
-
-
-

かんせい あと たいせつ
チェックリストが完成したら…？ その後がとっても大切です。

もと ぼうさい じゆんび
チェックリストを元にさっそく防災ポーチを準備してみましょう！

い ていきてき みなお
チェックリストをポーチに入れておくと、定期的な見直しもしやすくなります。

かぞく はな あ
家族とも話し合いながら、つくってみましょう！

れんらくさき
連絡先メモは
も
持ち歩こう！

なまえ

〇〇 町 0-0

000-000-0000

〇× 小学校



2026年1月17日

令和7年度

愛南町防災フォーラム

南宇和高校防災地理部、

東京大学大学院生、

そして福浦ギャルズ

フォーラムでの発表の最後に語った私たちからのメッセージ・・・

「私たちは『福浦ギャルズ』というふうに呼ばれています。

口を開くと『防災！防災！』『みんなで生きるんよ！』と言い続けている私たちの姿を見て、慶應義塾大学の太木先生と愛南町の中尾教育長が命名してくれたのです。

今では、町のみんが『ギャルズの皆さん』と親しみを込めて呼んでくださるのがとても嬉しいです。

私たちは大きい災害を経験したことはありません、『今できることはしたい』という気持ちとおせっかいな心だけで10年続けてきました。

防災活動を始めたことでたくさんの人と出会い、たくさんの方の考え方を知り、たくさんの方たちの助けのおかげで、生きる希望が増えてきています。

『私たちはここで暮らしていきたい。皆で生きたい。』

これからも初心を忘れず、後悔ないように行動するだけです。

住民一人一人が防災を自分のこととして考えられるように、福浦だからこそできる活動をこれからも続けていきたいと思えます。』



福浦ギャルズ





わたし
私たちのまち「福浦」
ふくaura

もしものときも、福浦で生き抜くために

